基調講演　島が語る持続的未来

岐阜県立森林文化アカデミー学長・
東京都市大学教授　涌井 史郎 氏

今まで我々は、成長を産業化革命的な発想で強制され、社会資本を重視し、豊かさを追い求めることが大事であると考えてきました。しかし、これからは（重要なことは）成長ではありません。そのためには伝統、自然資本、豊かさを深める社会が必要で、地縁結合型社会に向けていかなければならない。

（島の）皆さんは肩書きがなくても帰る場所があります。これこそが地縁結合型社会です。今まで利益結合型社会の中で生きてきたことを考えると、地縁結合型社会は極めて豊かな土壌にあるということに気付きます。

人間のさまざまな欲求のなかで、この島は自己実現を（かなえることが）できる恵まれたところです。このことに誇りを持ってください。そしてこれをどうやって発展させていくかを考えていただきたい。

基調講演　資源は使う時代から創る時代へ
-循環システムによる地域関係性修復事例-

アミタホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長　熊野 英介 氏

私たち（の会社）は、山・里・産業・社会の「もったいない」をどう経済にできるかということに挑戦しています。自然のもったいないは、間伐材をエネルギーにしたり、里のもったいないは、空間利用だけではなく、耕作放棄地に機能性農業を取入れ、9割を輸入している薬草を日本で（栽培）できないか進めている。産業のもったいないは、まだ使える廃棄物を資源化しようということと、再生エネルギーの開発ということをやっています。社会のもったいないは、障害者の皆さんの労働をどう集約して、生産性にどう関与していただくかなどということに挑戦しています。それと多くのシニアの人がリタイヤ（退職）されているので、そういう人たちのネットワークをどう創るのかということに挑戦しています。

沖永良部島が失ってはならない価値『90歳ヒアリングから』

合同会社 地球村研究室 代表社員
東北大学名誉教授
石田 秀輝 氏
（徳時字在住）

地球環境問題と心豊かに生きるということを両立するため、この島に残っている知恵を使わなければなりません。沖永良部島は、厳しい環境の中で、ワクワクドキドキ、心豊かに生きる日本のお手本になることができると思います。

90歳ヒアリングをとおして「確かな未来が、懐かしい過去にある」ということを確信しました。ただ過去に戻るのは簡単ではありません。戻れるなら環境問題は起きません。戻れないから環境問題が起きるのです。そうであれば、私たちは何を考えないといけないのか。戻れないけど、過去から学ぶことはある。それを今に生かしたい。それが90歳ヒアリングの目的です。

つらい水汲みや草刈りも楽しみと
考えていた時代から学ぶことがある

国内で行われた90歳ヒアリングからみた、共通している失われつつある『価値』は44個あります。去年、沖永良部島で行った13人のヒアリングの結果からは、そのうち29個が濃く出てきました。この29個の価値のなかで、特に共通してでてきた価値が5個あります。それは、①食②自然③集い④楽しみ・遊び・学び⑤仕事です。

この5個の価値の根底に流れるものを、現在の文化や文明の中で、どうやって生かすことができるのかということを考えていかなければなりません。

90歳ヒアリングとは

90歳前後の方々が持つ低環境負荷の暮らしの知恵や技術を1つでも多く学び取り、昔の暮らしの知恵や自然と共生するライフスタイルからヒントを得て、それらを応用することで、新しいものづくりや社会システムの形成に活かし、子孫のための将来のまちづくりの提案をしていくことを目的としています。